

第 1894 回 定例研究会報告要旨（6 月 18 日）

食品製造業の市場構造

——集中水準と集中状態——

佐藤 孝一

これまで食品製造業の産業組織については、市場構造上の特徴の一つとして「二極集中」がとりあげられている。食品製造業では、中小企業のシェアが大きく、大企業寡占的な業種もあれば、多数の中小企業からなる競争的な業種もある、という構造的特徴が指摘されてきた。また、寡占化傾向がみられるという分析もされてきた。一方で、この寡占化傾向に対して、平準化傾向を示す研究成果も示されている。

しかし、食品製造業では、「二極集中」という構造上の特徴が、業種間にだけでなく、同一業種内でも見られる。食品製造業の市場構造をみる場合、これまでの業種と業種を比較する分析だけでなく、業種内の競争形態も分析する必要がある。

そこで、本報告では、食品製造業の市場構造について、同一業種内における大企業と中小企業との競争関係といった視点から分析を行った。具体的には、公正取引委員会から公表されている累積生産集中度のデータを用いて、同一業種内を上位 4 社と、第 5 位から 8 位まで、第 9 位以下の 3 グループに分け、各グループの累積生産集中度の平均と傾向的变化（トレンド）を計測した。分析期間は、1960 年から 1998 年までの期間で、業種毎にデータが利用できるすべての期間である。トレンドは、年平均増加率である。上位企業、中位企業、下位企業の各グループを、それぞれ大企業群、中企業群、小企業群と捉え、同一業種内における競争形態を分析した。

各グループの累積生産集中度の平均とトレンドの計測結果、主に以下のことが明らかとなった。

上位 4 社の累積生産集中度の平均とトレンドとの関係を見ると、集中度の平均が低い業種ほど集中度が大きく上昇してきた傾向がみられる。一方、集中度の平均が高い業種では、集中度が上昇する傾向の業種もあれば、下降する傾向の業種もあるが、概してその傾向値は小さく、集中度の変化は小さい。

上位 4 社の累積生産集中度のトレンドを軸に、各グループのトレンドの関係から、同一業種内における上位企業と中位企業あるいは下位企業がどのような競争関係にあるのかをみた。

上位 4 社の累積生産集中度がプラスのトレンドを示している業種では、いずれの業種においても、下位企業のトレンドは下降傾向を示している。しかし、中位企業のトレンドに関しては、下位企業と同様に下降傾向を示し、上位企業に生産がより集中した業種もあるが、上位企業と同様に上昇傾向を示し、上位企業に対抗している競争関係がみられる業種もある。

上位 4 社の累積生産集中度がマイナスのトレンドを示している業種では、中位企業と下位企業との傾向値を比べると、下位企業のプラスの傾向値が中位企業のそれより大きい業種もあり、上位企業のシェアの減少分をめぐり、中位企業だけでなく、下位企業が中位企業と競争しあっていることが窺える。

また、上位 4 社の累積生産集中度にトレンドがない業種では、ほとんどの業種で中位企業のトレンドが上昇傾向を示し、下位企業のトレンドは下降傾向を示している。これらの業種では、中位企業に生産が集中し、業種内全体として下位企業から中位企業へ生産の集中が進んできた。

以上、本報告では、市場構造の指標である集中度を用いて業種内の競争関係をみたが、集中度だけでなく企業数の変化も含めて競争関係を分析する等検討すべき点がまだ多くあり、今後の課題として残された。